



僧帽弁閉鎖不全症



僧帽弁閉鎖不全症とは、左心房と左心室の間に位置する僧帽弁が変形して生じる弁膜疾患です。

全ての犬種にみられますが、とくにマルチーズ、シー・ズー、ポメラニアン、プードル、キャバリアなどの小型犬に多い病気です。加齢とともにその発生が増加します。

僧帽弁って？ 僧帽弁は、心臓の左心房と左心室の間に位置する2枚の薄い弁で、心臓が収縮した際に心房と心室を閉鎖し、左心房への血液の逆流を防ぐ働きをしています。

僧帽弁の閉まりが悪くなると、心臓が収縮する際に全身に拍出されるべき血液の一部が弁の隙間から左心房内に逆流します。

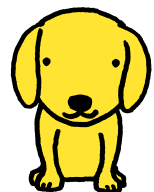
この状態を僧帽弁閉鎖不全症といいます。

症状は？ 発生当初は、症状がなく、心内雑音（心臓の収縮時に血液が逆流する音）が聴取されるのみですが、だんだんと症状が悪化すると、心臓が大きくなり、気管支が圧迫され、肺の機能が低下します。また、運動をしたがらなくなったり、咳をしたり、呼吸が荒くなったり、倒れたり、と目に見えて分かる症状が現れた時には、すでに病気が進行し、心臓や肺の状態、僧帽弁の状態がかなり悪くなっています。

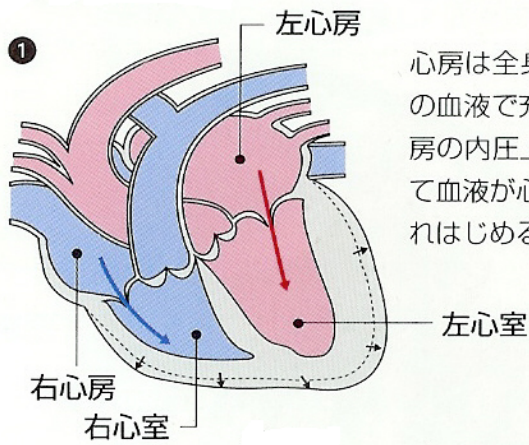
治療法…

- ☆ 運動制限 → 運動は控えめにしましょう。
- ☆ 食餌管理 → 塩分や脂肪分の多い食品を与えないようにして下さい。また、肥満に気をつけましょう。
- ☆ 薬 → 血圧を下げるための血管拡張剤、強心剤、利尿剤などのお薬を投与して、病気の進行を抑える治療を行います。

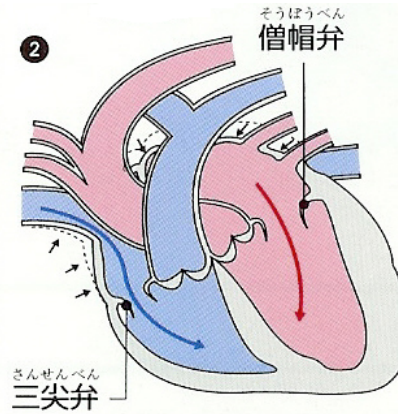
病気の進行を抑えるための薬物投与と生活の改善の両方が求められます。
ご家族の協力こそが病気の進行を遅らせる鍵となるのです。



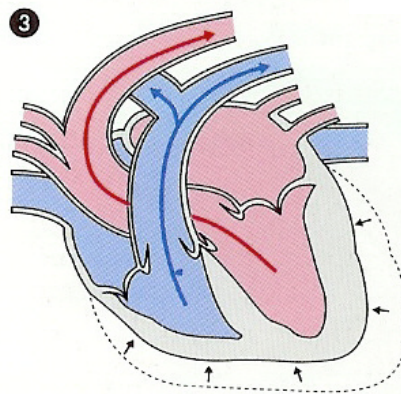
正常の血液の流れ方



心房は全身、肺からの血液で充満し、心房の内圧上昇によって血液が心室内に流れはじめる。

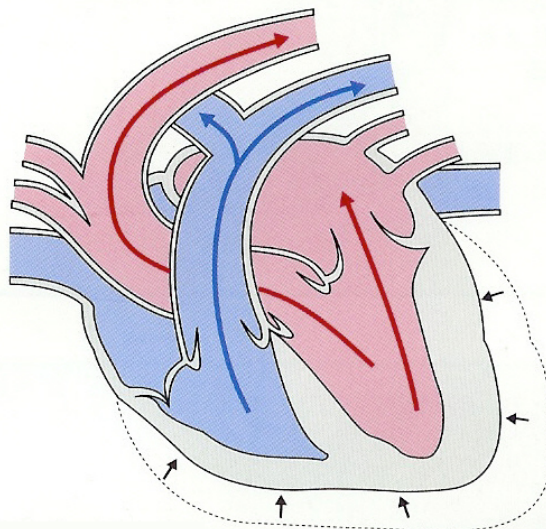


心房の収縮によって三尖弁と僧帽弁が開いて全身、肺静脈からの血液は心室に送り込まれ、心室内は血液で充満して心室内圧が高まる。そのときまで三尖弁と僧帽弁は開いている。



心室内が血液で満たされると、心室は収縮を開始し、全身または肺動脈へ血液が拍出される。この時点で三尖弁と僧帽弁は閉鎖し、血液は心房内には逆流しない。

僧帽弁閉鎖不全症の血液の流れ方



上記の③と対比。心房からの血液で充満した心室が収縮する際、僧帽弁の閉鎖が不十分なために血液の一部が左心房内へ逆流する。僧帽弁は心房側へ反転している。